

行政評価シート（事務事業評価）		評価年度	3年度
事業名	中学校英語指導助手設置事業	担当課	教育課
事業内容(簡潔に)	市内中学校に対して各校1名の英語指導助手を配置する事業		

1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第7次総合計画での目的体系	基本方向	将来を担う子どもをのびのびと育むまちづくり
	政策	子どもが夢を持ち続けることができる教育の充実
	施策	学校教育の充実
関連する個別計画等		根拠条例等

2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	生きた英語に数多く触れることで、英語学習への意欲・関心を深め、英語を聞く・話すといった基礎的なコミュニケーション能力の向上を図る。 また、異文化についての意識を高めることにより、国際理解教育を図る。
事業の手段	・英語指導業務委託により、英語指導助手を配置し、英語担当教諭を主担当・ALTを補助として定め英語学習の指導を実施する。(英語指導助手2名) ・英語の授業において、ネイティブスピーカーとの英会話や、外国の生活文化様式等を学ぶ中で、国際感覚を身に着けるよう指導する。また、授業のほかに日常の学校生活・学校行事に英語指導助手が参加することにより、生きたコミュニケーションとしての英会話を学ぶ機会を作る。
事業の対象	市内中学校生徒

3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		30年度	元年度	2年度
財源内訳	A 事業費 (千円)	5,678	5,741	5,793
	国・県支出金			
	その他(使用料・借入金ほか)			
	一般財源	5,678	5,741	5,793
B 担当職員数(職員E) (人)	0.1	0.1	0.1	
C 人件費(平均人件費×E) (千円)	687	672	658	
D 総事業費(A+C) (千円)	6,365	6,413	6,373	
主な事業費用の説明	英語指導助手設置事業業務委託、教材・研修消耗品費			

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した30年度(6,862千円)、元年度(6,715千円)、2年度(6,575千円)を使用しています。

4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			30年度	元年度	2年度
活動指標	1 ALT配置人数(人) (生徒数(人))		2 (786)	2 (758)	2 (748)
	2 ALT授業日数(日)	葦崎西中学校 葦崎東中学校	202 208	191 192	187 185
	3 ALT基本時間数 (時間/年)	葦崎西中学校 葦崎東中学校	490 525	490 490	455 525
妥当性	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない				
上記活動指標と妥当性の説明	1	民間会社との委託契約により、ALT2名を配置し、英語担当教諭を主担当・ALTを補助として学習指導を実施している。			
	2	英語の授業だけでなく、普段の学校生活の中でもALTと交流することで聞く力・話す力をより強化しているが、新型コロナウイルスによる臨時休業の影響で授業日数が減少している。			
	3	1クラス1時間を基本とし、全学級数×35週を基本時間として英語の授業を行っている他、授業以外でも英語の指導などを行っている。			

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			30年度	元年度	2年度
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1	ALT授業実時間 葦崎西中学校 葦崎東中学校	641 716	597 472	447 461
	2	ALT授業活用率 ALT授業時間/全英語授業 時間 基本:25%	西 32.7% 東 34.0%	西 30.4% 東 24.0%	西 24.5% 東 21.9%
	3	生徒一人あたりのコスト 事業費/生徒数 (円)	7,224	7,573	7,744
成果		<input type="checkbox"/> A 上がっている <input type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C 上がっていない			
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	ALTの活用基本時間を基に、積極的に活用していくよう日々取り組んでいるが、学校によってALTの活用にバラつきが生じているほか、ALTの変更も影響があると考えられる。なお、元年度および2年度においては、新型コロナウイルスによる臨時休業の影響で、授業日数が減少したことに伴い活用時間が減少している。			
	2				
	3	生徒数減少の為一人あたりのコストは増加傾向であるが、英語教育強化が図られていく流れの中で、英語指導助手の導入は、今後ますます必要度が高まることが見込まれる。			

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input checked="" type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	--

6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 拡大 (コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 (事務的な改善を実施する) <input type="checkbox"/> 全部改善 (内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要) <input type="checkbox"/> 縮小 (規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する) <input type="checkbox"/> 廃止 (廃止の検討が必要)			
事務事業の改善案	改善の概要・方向性 (いつまでに、どのような形で具体化するのか)			
	令和3年度の改善計画 (今後の事業展開説明) 令和2年度から小学校での英語教育必修化が始まり、3年生と4年生は「外国語活動」、5年生と6年生は「外国語」が教科化された。小学校から「英語に親しむ」目的のもと、コミュニケーションを重視した聞く力や話す力を養うには、中学校に配置するALTの小学校への巡回はネイティブの英語に触れる重要な機会であるので、できる限り、標準的な英語の発音である国の出身者を確保することが望ましい。 このため、令和5年度まで長期契約を結んでいるが、ALTの資質向上のため、次期契約に際しては、プロポーザル方式にて委託業者を選定できるよう検討したい。			
過去の改善経過	改善の経過	・平成19年8月にJETプログラムの英語指導助手を止め業者委託へ変更 ・令和3年度からの長期契約に向け仕様書を見直し、ALTへ各校より直接指示ができるよう、委託契約ではなく派遣契約の形態とした。		
	直近の評価結果	内部評価	令和元年度	<input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止
		外部評価	対象外	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止
改善案	・英語教育の重要度は年々高まっており、英語指導助手はネイティブの英語に触れる重要な機会であるので、複数国の出身者からALTを配置し、標準的な英語の発音である国の出身者とも触れ合えるような配置をすることが望ましい。 ・令和2年度で現在の長期契約が終了となるため、仕様書等を見直し適切な業者委託の方法を検討したい。			
課長所見	小学校での英語教育必修化に伴い、中学校でALTによる生きた英語に数多く触れる授業へ円滑に移行する流れがさらに構築されつつある。 現行の中学校に配置するALTを定期的に小学校へ派遣する方法は、英語専科教員の配置と併せて、小学校教員の英語指導力の資質向上の面からも有用であると考え。			